

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	森戸国際高等教育学院による独自のオンライン・プレースメントテスト : 2020 年度の実施状況について
Author(s)	名塩, 征史
Citation	広島大学留学生教育 , 25 : 36 - 39
Issue Date	2021-09-30
DOI	
Self DOI	10.15027/51935
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00051935
Right	
Relation	



森戸国際高等教育学院による独自のオンライン・プレースメントテスト ：2020年度の実施状況について

名塩征史

森戸国際高等教育学院（以下、本学院）では、各留学生の日本語レベルに応じた日本語授業の提供を目的とし、前期・後期の開始前にプレースメントテストを実施している。本報告は、2020年度に実施された本学院独自のオンライン・プレースメントテストについて、事前申請件数、アカウント登録者数、受験者数、実施の際に発生した問題をまとめたものである。なお、当該テストは2020年度から本格的に開始されたものであるが、実施に至るまでの準備活動については前号掲載の報告に記載されている。また、報告者は当該試験の実施・運営を取り仕切る立場にあり、試験問題の作成には関わっていないため、ここでは当該試験の実施にかかるオンライン・システムの運用に関連する範囲に報告をとどめる。

◆ プレテスト後に発覚した問題への対処

2020年度からの実施を前に2019年度中に行われたプレテスト（前号の報告を参照）では、次の3つの課題が明らかとなった。

- 1) Web サーバー用端末の OS に起因する不具合への対処
- 2) 大勢の受験（希望）者への効率的な対応
- 3) 受験（希望）者との確実な情報共有

1) については2020年2月時点でのOSのアップデートをもって解消され、プレテスト中に発生した予期せぬシステムの停止や再起動が生じることはなくなった。

2) については、Microsoft® Forms で作成した事前申請フォームに Microsoft® Power Automate を連携させることで各申請者に次の動きを詳細に記した返信メールを自動送信するシステムを採用し、問題の大部分を解消することができた。また受験者用のログイン・アカウントを作成する際には、事前申請情報から必要事項のみを転写した CSV ファイルと Moodle のユーザーアップロード機能を利用することで大量のアカウント情報を一括でアップロードすることが可能となった。アカウント作成と同時に仮パスワードが自動作成され、登録された各申請者のメールアドレス宛に自動通知される仕組みとなり、大勢の申請者にも短期間で効率的に対応できるシステムが構築された。

しかし、3) については、上記の効率化をもってある程度までは解消できたものの、受

験（希望）者との情報共有は、依然として十分に保証されるには至らなかった。これについては本報告の「実施の際に発生した問題」で後述する。

◆ 2020 年度オンライン・プレースメントテストの概要

<日程>

2020 年度オンライン・プレースメントテスト（以下、OPT）は、前期授業（4 月～8 月）、および後期授業（10 月～2 月）の開始に合わせて、表 1 に記した日程で 2 回実施された。

表 1：2020 年度 OPT 実施日程

前期	後期
2/17 (月)：実施要領について各部局へ通知	8/17 (月)：実施要領について各部局へ通知
3/2 (月)：事前登録申請開始	8/31 (月)：事前登録申請開始
3/7 (土)：OPT 受験開始	9/4 (金)：OPT 受験開始
3/30 (月)：レベル判定会議	9/18 (金)：事前登録申請終了
4/1 (水)：レベル通知（初回）	9/23 (水)：OPT 受験終了
4/6 (月)：事前登録申請終了	9/24 (木)：レベル判定会議
4/8 (水)：前期授業開始	9/25 (金)：レベル通知
4/9 (木)：OPT 受験終了	10/2 (金)：後期授業開始

前期授業に向けての実施では、OPT 実施期間の途中にレベル判定会議を行い、1 回目のレベル通知後しばらくは、事前登録申請と OPT 受験を正式に認める日程となっていた。したがって、1 回目のレベル判定会議、およびレベル通知は、3 月 29 日までの受験結果に基づいて行われ、それ以降のレベル通知は、判定会議で決定された判定基準に沿って随時行われた。しかし、レベル通知を数回に渡って行わなければならないことや、1 回目のレベル通知により判定基準が拡散し、希望するレベル基準に達するまで OPT の受験を不正に繰り返す受験者も現れたため、後期授業に向けての実施の際には、日程が改められた。

後期授業に向けての実施では、授業開始日の 1 週間前には受験者（履修希望者）のレベル判定が全て完了するように日程が組まれ、その後の事前登録申請、および OPT の受験は、原則として認めない方針が採用された。受験期間終了後の受験を認める「救済措置」を検討する余地のある事情（実施者側の不手際、通信状況の不具合など）によって期間内に受験が完了しなかった受験希望者については、希望者本人からではなく、希望者が所属する（予定の）学部／研究科／プログラムの担当者から依頼を受ける形で個別に対応することとなった。

<事前申請者数、アカウント登録者数、受験者数>

2020年度に実施された2回のOPTについて、各回の事前申請件数を表2に、またアカウント登録者数と受験者数を表3に記す。

表2：2020年度OPTの事前申請件数

	前期			後期		
	学習歴あり	学習歴なし	合計	学習歴あり	学習歴なし	合計
在學生	269	11	280	71	5	76
新入生	67	9	76	247	62	309
合計	336	20	356	318	67	385

表3：2020年度OPTのアカウント登録者数と受験者数

	前期	後期
アカウント登録者数	330	286
受験者数	296	243
未受験者数	34	43

2020年度はコロナ禍の影響を受け、受験者数が例年よりも若干少なくなった。中にはアカウント登録（事前申請）後に来日を断念せざるを得なくなった学生もおり、表3の「未受験者数」にはそうした学生の数も含まれている。

◆ 実施に際して発生した問題

2020年度のOPT実施に際して発生した3つの問題について以下に記す。

<1. 受験回数について>

2020年度前期では、受験回数の制限を行わず、各受験者が何度でも受験できるような設定で実施した。その理由は、受験回数を1、2回に制限してしまうと、予期せぬシステムエラーや通信障害によって受験結果が記録されなかったり、受験の途中で接続が切れてしまったりする事態が発生する恐れがあったためである。そのような事態が発生するたびに再受験の希望を逐一受け付けることは、人員に限りがあることから避ける必要があった。しかし、実際にはその設定を逆手にとって必要以上に何度も受験する者が現れ、正確なレベル判定ができずに事後対応を余儀なくされるケースが少なからずあった。そこで同年度

後期では、受験回数を2回に制限し、かつ、1回目の受験で何かしらの問題が起こり、適切に結果が記録されなかった場合にのみ再受験を試みるように注意を促した。これにより、大半の受験者は1回の受験で問題なく受験を完了したが、ここでも、1回目の受験結果が記録されているにもかかわらず再受験を行う者がいた。次年度以降は、受験回数を1回に制限する方向で検討を進める予定である。

<2. 劣悪な通信環境に起因する一部問題の動作不良について>

後期実施のプレースメントテストに含まれる聴解問題について、プレテストや前期実施のものに比べて各問の質が向上し、その分音声ファイル(.mp3)のサイズが大きくなった。その結果、海外から受験する受験者が使用する通信環境によっては、各問の制限時間内に音声再生されず、聴解問題の一部、もしくは全てに回答できないケースが少なからず発生した。このケースに該当する受験者のうち、受験期間中に来日できた者については、来日後に再受験を行うことで解決できたが、コロナ禍によって来日できない学生については、やむを得ず、聴解問題を除いた合計点から算出した正答率によってレベル判定を行なった。次年度以降は、聴解問題で使用する音声のファイルサイズをできるだけ小さくすることにより問題の解決を試みる予定である。しかし、この問題は、OPTに限らず、通常授業に海外からオンラインで参加しようとする場合にも深刻な影響を及ぼすものと考えられるため、根本的な解決には、受験者／受講者側で通信環境を改善する必要がある。

<3. 受験前後に行われるEメールでの通知について>

事前申請の際に受験者から提供されるメールアドレス宛には、受験開始までの動きと受験期間を知らせる自動返信（事前申請直後）、受験システム（Moodle）にログインするためのUsernameとPasswordを知らせる通知、レベル判定の結果を知らせる通知などが送信される。しかし、これらの通知が確認できず、期間内に各種手続きが完了できなかったと訴える受験者からの問い合わせが多数寄せられた。ところが、そのほとんどのケースで、本学院から送信されたメールが迷惑メールとして受信されていたか、受験者が事前申請の際に登録したものと異なるメールアドレスを確認していたことが対応後に判明した。特に入学手続きが完了する前に事前申請を行なった受験者は、入学手続き後に発行される“@hiroshima-u.ac.jp”のアドレスにメールが届くものと勘違いしていた学生もいたようだ。こうした不注意や誤解によって、やむを得ず受験期間後に特別措置を講じることになったケースや、受験を断念せざるを得なくなったケースもあったため、次年度以降は、受験者に対して、事前申請時に提出したアドレスの確認、また受信した迷惑メールについても確認するように注意喚起を行なっていく必要がある。